

しんらん同人

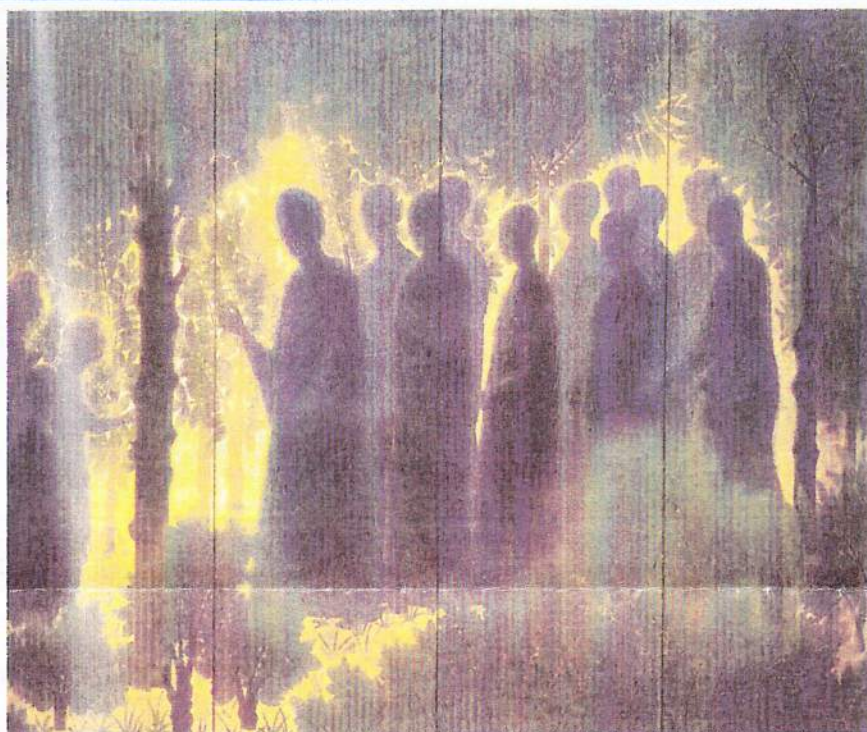
NO. 502

3月号

二〇一三年三月一日発行 郵便番号171-0052
 発行所 東京都豊島区南長崎一の三の八 誓願寺
 TEL 36650 7828 FAX 36650 6820
 E-mail SEIGANJI@RESET.JP

祇園精舎

平山郁夫作



樹木の生い茂る森、祇園精舎で説法するお釈迦さま、お釈迦さまと弟子たちを取り巻く光は木々の間から漏れる太陽の光で、その輝きと、逆光のもとでよく見えない人々の顔の表現は、説法の場合に幻想的な雰囲気を与えている。

葬式と法事の意義(二)

儀式は全て、それなりの意味があつて成り立っています。お仏壇やお墓にお供える花は、その人の優しさを表し、蠟はその方の知恵を示しています。そしてお香は、その方の徳・人柄を示しています。お経のなかに、「香の薫りは風に逆らつては流れない。しかし人柄、人望は風に逆らつて流れる」とあります。風に逆らうというのは、仲間だけがその人の人柄を敬うのではなく、たとえ敵対していたライバルさえも、その人柄をちゃんと評価するということです。それが人徳、人望というもので、その気高さをお香で表すのです。ですからお香は薫り高いものでなければなりません。いわゆる「抹香臭い」ものであつてはいけません。です。そのように、お莊嚴には深い意味があるのです。

気高く清らかな方の前で、そのように莊嚴して合掌礼拝しお敬いをしますが、頭を垂れるということは相手を尊敬して自分は謙ということですから、自惚(うぬぼれ)の心を反省するということにも

なります。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」というがありますが、頭を垂れない人間は中味のない人間ということになります。中味が出来てくると、お敬いの気持ちも深くなつていく。これが本物の人間の姿です。私たちが合掌礼拝のときにお香を焚くのは、この世でのあらゆる欲望に汚れきつた己の臭いを少しでも消

三月二十四日(日) 午前十時

彼岸会法要厳修

講師高田慈昭師

して、あなたの清らかな香りとともに敬意を致しましょうという作法です。したがってお香を香炉にくべるときは、お香を戴くように捧げ持ったり、二回、三回とくべたりする必要はありません。一つまみを焚いて、心からのお敬いの合掌礼拝をします。合掌しながら「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」とお念仏をお称えし、深く頭を垂れて礼拝をします。そして頭を上げ、もう一度「南無阿弥陀仏」をお称えして退出します。こうすれば、ゆつたりとした礼拝になります。



作法といえば、お葬式のときお焼香に見えた方々に対し遺族がペコペコ挨拶する姿をよく見かけますが、まことにおかしい風景です。そんなことをする必要は全くありません。お通夜やお葬儀に参列された方は、亡くなられた方とくなられた方を中心を考えるなら、遺族が頭を下げる必要はありません。遺族にとつては、まことに悲しいお別れの最中のはずですから、亡くなられた方とのこれから

での過ぎ来し日々などを思い、あるいは自分のこれからの日々に思いを致しながら通夜、葬儀を通してひたすら丁寧にお別れをしてしめるべきです。それを故人とお別れは上の空で弔問客に気を取られるようなことはすべきではありません。

亡くなられた方のほうを向いて、しっかりとお別れをしていただきたいものです。「悲しいときは、三つのTを大事にせよ」ということがいわれます。

まず第一は「Tティア(涙)」です。「しっかりと涙を流さない。」ということ。涙はこらえてはいけません。悲しいときは心の底から泣くことです。

第二は「Tトーク(話す)」です。亡くなった人の思い出話をしっかりとすることです。話をすれば、よけいに悲しくなります。思い出せばさらに悲しくて寂しくて、また涙も出ましようが、涙を流すことで心のなかの重石は徐々に軽くなつていきます。よく、

「あの人は気丈に涙も流さずに応対なさいました」という褒め方を

する人がありますが、涙も流さないような人は、後々いつまでも悲しみを抱えていくことになりまます。他方、お棺に取りすがって大泣きし、どうかするとあのまま一緒に炉に入ってしまうのではないかと、思うほどの悲しみを表に出す方がありますが、じつはそういう人のほうが後々ちゃんと立ち直ります。むしろ気丈に見送った人のほうが、だんだんおかしくなってしまうものです。ですから、「あの人の後を追いたい」とさえも思うほどに悲しみ、思いつき涙を流していただきたいものです。最後は「Tタイム(時間)」です。悲しみはすぐに癒えることとはありません。時間がかかります。故に「初七日」「満中陰(四十九日)」「百ヶ日」「一周忌」、さらには「三回忌」と二年にわたる折々のご法事をお勤めするのです。

これは「亡くなられた方のため」というよりも、残された人々の悲しみをどう慰めて

いくかということなのです。二年にわたるご法事を勤めながら、少しずつ悲しみが癒えてきたころ、それからの四年間は間を空け、次は「七回忌」、その次は「十三回忌」「十七回忌」のご法事をお勤めいたします。「十七回忌」の次は「二十三回忌」「二十七回忌」「三十三回忌」とお勤めしていくことになります。

前住法話



念仏の世界

「朝も夜もただお念仏するだけです。称えているのは私ではなく、私の口を通して仏さまが南無阿彌陀仏と呼んでくださっています。」

新しい納骨壇

今、生きているうちに、あなたの納骨堂を用意しませんか。

核家族となり、親子の関係もだんだん変わりつつあります。

安心して生きてゆくために準備が必要です。

そこで新しい納骨壇を作りました。これはお寺の方で永代に供養できる一人用の納骨壇です。

一基三十万円です。

百基作りました、場所等は先着順です。管理費は一年一万二千元です。早めにお申し込みください。



す。私はそれを聞いて喜ばせていただいているのです」

私たちに出来ることといったら念仏することだけです。念仏はいつでもどこにいても称えられます。大きな声で具合悪いなら小さな声で結構です。念仏を申すと、

「心配するな、任せなさい」

といわれているように聞こえます。嬉しい時も悲しい時も、どんなにか力強く生かされて行くか分かりません。それも自分がやっているのではない。向こうから働き掛けて下さる仏の願いが私の口に現れて南無阿弥陀仏となつたのです。

桐溪和上が亡くなったのは九十才でした。

今度は私の番と思いますとなんとなく寂しいですが、だがそうではない、お慈悲に包まれているのだ。必ず浄土に生まれさせていただくのだ。南無阿弥陀仏が出て下さるたびに、

「よかったなあ」

と喜ばせていただいています。順番はだれに回って来るか分かり

ません。やがてはこの人生に別れを告げる時が必ず来ます。死んだらどうなるか。お願いしなければ行かないなら大変ですが、祈るでも願うでもない、仏さまの方から願うて下さるのです。引き受けたと呼んで下さるのが南無阿弥陀仏ですから、安心して今日一日を精一杯生かしていただき、安心して死んで行くことの出来る大きな世界が恵まれているのだと喜ぶばかりです。

親鸞聖人は九十才でお亡くなりになりました。その時の様子を御伝鈔では、

「弘長二年の冬からいささか健康がすぐれさせられず、それ以来あまり世間のことは口にせず、ひたすら仏恩に感謝しながら称名を続けて、八日目の十一月二十八日、念仏の声絶えるとともに亡くなられました」

とあります。私も聖人のように仏の仰せを信じて南無阿弥陀仏の呼び声をいただいて生かしてもらっているのが、浄土真宗の念仏の世界です。

質疑応答

問 今度、霊園で法事をしますが、葬式の時お願いしたお坊さんと霊園のお坊さんとどちらに頼んだら良いのでしょうか。

答 本来ならば、どの家にも決まった菩提寺というものがあるはずで、仏事はもっぱらそこへ依頼するのが当たり前でした。現在だからこそ、あなたのようなご質問があり得るわけです。

さて、法名(戒名)は、どちらのお寺で付けて頂いたのでしょうか。法事のお勤めは同じ僧侶に依頼するのが筋でありま。法名を付けるというのは、ただ名前を付けるというだけではなく、後々のことも面倒を見る責任があるということの意味するからです。もしも法名を郷里の菩提寺から受けられた場合には、葬儀を執行した僧侶に依頼するのがよいでしょう。それも出来ない場合には、菩提寺から紹介を受けた僧侶にお願いします。

いずれにしても、法事の度に違う僧侶というのは、あまり好

ましいことではないような気がしま
す。いずれは、心から尊敬出来、何で
も相談のできる僧侶と出会っていた
だきたいと思います。

編集後記

◎半年振りに外へ出た。中学、高校
と過ごした九州福岡へ一人旅、もつ
と弾むものがあるかと思つたが、相
変わらずである。

◎しかし、中学のころ未だ戦後の食
料難の時代に貧乏生活をしていた、
早良の重留は忘れられない。新池と
古池があつたが、古池は埋め立てら
れ、山の中は、住宅街となり、昔の
面影は何もなかった。ここで父や母
と苦労したこと食べるものがなく、

草や芋の茎を食べたことを思
い出し、懐かしかった。修猷館
にともに通つた福田晋一郎君、
丸田裕子さんにも合い、古き
良き時代に帰つた感じがした。

◎前坊守が亡くなつてから、半
年が過ぎた。ふと、机の上に置
いてある慰めの文章が目につい
た。二百通以上ある。もう一度
読み返した。色々な方がその時
の気持ちを表してあり、非常に
有難く、一つ一つ読み返した。
今まで私は物事を何でも合理的
に割り切つて処置してきた。だ
が文章の中にあふれる皆さんの
気持ち、あたたかく胸を打つ
た。こうした行為が人の気持ち
を打つことを知った。

祥月命日の方々

徳富和子	松原 毅
森岡万寿	中須賀昭子
甲野春見	岡本満
石川しゆん	宇都照行
荒木信江	佐藤千寿子
坂本嶋芳枝	平岡勇
宮地忠雄	藤井さた
岩下一二	原 靖子
合庭甚六	牧野末男
石原ヒキ	杉本健

平成二十五年三月回忌法要



◎リキはちよつと寂しそうに見える
のは私だけだろうか。中々元に戻れ
ない、自分を情けなく思う。

三月御法座案内

十日(日) 午前十時 聖典講座

正午 健康相談

講師 佐藤公彦医師

十七日(日) 午前十時

十九日(火) 十一時

廿四日(日) 午前十時

なかよしくらぶ

歎異抄の会

彼岸会法要



恭順院 釈明敏	山口トシエ	82	2007/3/9	七回忌
芳泉院 釈尼浄恵	鈴木ちよ		1991/3/10	二十三回忌
普照院 釈超英	万年英明	59	2007/3/11	七回忌
慈眼院 釈尼妙春	吉川春枝		1991/3/14	二十三回忌
順行院 釈尚英	藤井尚英	80	1981/3/15	三十三回忌
普現院 釈賢忠	村尾忠明	55	1989/3/19	二十五回忌
薫香院 釈尼妙美	朝倉けさみ	87	1991/3/19	二十三回忌
慈恩院 釈尼静心	金城静子	77	1989/3/23	二十五回忌
義敬院 釈一応	原口 一	88	1997/3/23	十七回忌
清信院 釈雅祐	永吉雅雄	70	1991/3/24	二十三回忌
瑞光院 釈芳菊	國田きく子	90	2011/3/24	三回忌
崇顕院 釈浄宏	香月宏介	64	1987/3/26	二十七回忌
慈徳院 釈幸信	讃岐幸三	64	1987/3/29	二十七回忌
明彩院 照蒼貞阿雄	赤羽 政	85	1997/3/30	十七回忌